



# 君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ  
平成28年10月13日(木)

Vol.337

## 私が思うこれからの経済

秋元 秀夫

この稿を書くことを迷って発信が遅れてしまいましたが、心残りにならぬようにと意を決して書く事に致しました。

世界の経済、日本の経済—アベノミクス—が勢いを取り戻せないで低迷しております。世界経済の成長率の予測はあの中国をはじめとしてここ1~2年は何度も下方修正され貿易の不振が続き、それは一過性のものでなく、当分は中長期的なスパーンで成長率は低下して行くのではないかとと思われるような情勢が続いております。私の様な地方の小商人が言えることではありませんが、最近のTPPはアメリカの政治家などの発言などから思えば、グローバル経済はこれからどういう方向へ向かうのだろうかとの疑問が生まれます。保護主義？現地生産販売？が進み日本を含む先進国企業は膨大な内部保留を抱えながら国内への設備投資には前向きな姿勢は全く見られない事もその大きな原因の一つでもあります。この将来への不安感から来る慎重論は西欧などで見られる自由貿易や大量の移民の流入を嫌う反グローバリズムが拡大しつつあり、アメリカへも飛び火して行くのではないかと私は懸念致して居ります。不安材料はたくさんありますが、国内的には高齢者の年金支給、医療費負担が受給者、負担企業にとっては今後大

きな課題であります。この課題を明確に解決しなければ、GDPの60%を占める国内消費の低迷は今後も続き、インフレ2%もあり得ないデフレへと逆行するのでは無いかと心配され、そのことを証明するように一部新聞紙上ではアベノミクスの成功によって倒産件数は戦後以来の歴史水準まで減少したと伝えられておりますが、実際には倒産件数は昨年は8,812件と減っておりますが、休・廃業、解散企業は昨年2万6,699件と今までの3倍の件数となっております。私共会議所の退会企業と同じ傾向であります。私の持論であります、グローバル化に生きる大企業、人々が寡占化に成果を上げている地域周辺の商業地は廃業、高齢者等の失業が増しております。私共はこの格差、不平等の解消について提案し続けて参りましたが、政治・行政に携わる方達には認識、理解を得られないまま今日に至っております。こうした状態を変えなくては本当の経済の繁栄、豊かさ、将来への安心感は生まれません。企業もまた資本主義のあり方がこの30年余り市場経済主義となり、株主の利益を優先し短期の利益追求が最優先とされ、弱肉強食の経済社会となりました。企業、資本主義本来の目的である職業を通して社会に貢献すると言う義務責任を放置して地域社会の健全な繁栄発展を無視するかの様な資本主義のあり方、企業の姿勢を修正すべき時だと申し上げ、格差・不平等の修正を唱え続けて参りました。私の声は届かなかったかもしれませんが、東方の一小国の日本が今日までなぜ繁栄して来たかを歴史に教わるべきだと述懐しながら次の号で会頭最後のお礼を述べさせていただきます、FAX通信を終わりとさせていただきます。

ありがとうございました。